



Exceed Your Vision

お客様の期待や想い(Vision)を超える(Exceed)こと。お客様に驚きや感動をもたらすこと。
私たちは、彩りある豊かな生活を創造する商品・サービスを提供しつづけます。

経営理念

お客様を大切に、地球を友に、
個性を尊重し、総合力を発揮して
世界の人々に信頼され、社会とともに発展する
開かれた会社でありたい。
そして社員が自信を持ち、
常に創造し挑戦していることを誇りとして。

(エプソンは経営理念を世界の14の言語に翻訳し、
グループ全体で共有しています。)



目次

連結財務ハイライト	1
株主の皆様へ	2
特集：“Exceed Your Vision”を 具現化する商品が続々登場 —新たな驚きや感動がここに—	4
事業別セグメントの業績の状況	8
経営トピックス	12
環境活動	14
連結決算の概要	16
単体決算の概要	18
グローバル事業展開	19
IR情報ページのご紹介	20
会社情報／株式情報	21

連結財務ハイライト

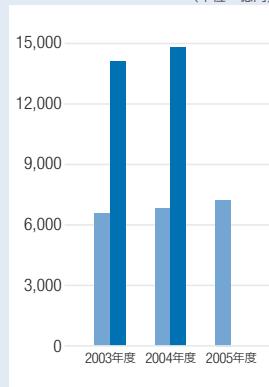
(単位：億円)

	2003年度中間 (2003年9月中間)	2003年度 (2004年3月期)	2004年度中間 (2004年9月中間)	2004年度 (2005年3月期)	2005年度中間 (2005年9月中間)
売上高	6,578	14,132	6,834	14,797	7,202
営業利益	331	774	658	909	60
経常利益	321	736	637	853	88
当期(中間)純利益(△損失)	165	380	394	556	△11
総資産	12,525	12,070	12,048	12,982	13,745
株主資本	3,988	4,143	4,606	4,728	4,794
1株当たりデータ(単位:円):					
当期(中間)純利益(△損失)	94.53	204.70	201.02	283.60	△5.91
潜在株式調整後 当期(中間)純利益	94.36	204.53	-	-	-
株主資本	2,031.27	2,110.20	2,345.78	2,408.13	2,441.77

(注) 1. 金額につきましては、記載単位未満を切り捨てています(1株当たりデータを除く)。
2. 表の「～年度中間」は4月1日から9月30日まで、「～年度」は、4月1日から翌年の3月31日までを指します。

売上高

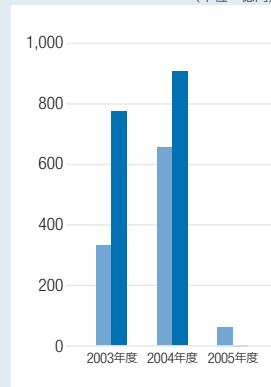
(単位：億円)



■ 中間期 ■ 通期

営業利益

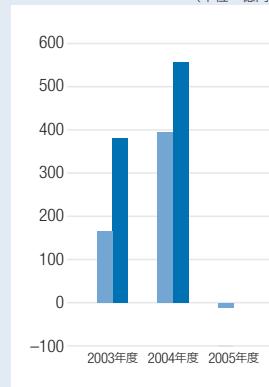
(単位：億円)



■ 中間期 ■ 通期

当期(中間)純利益(損失)

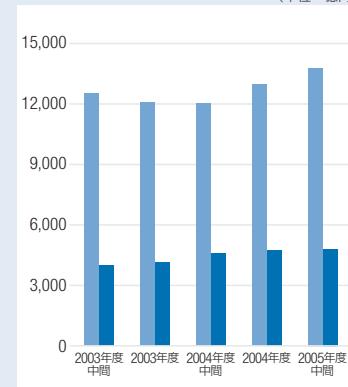
(単位：億円)



■ 中間期 ■ 通期

総資産/株主資本

(単位：億円)



■ 総資産 ■ 株主資本

株主の皆様へ

株主の皆様には、ますますご清栄のことと拝察申し上げます。
また、平素はエプソンの事業運営に格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。
2005年度中間事業報告書をお届けいたしますので、ご高覧賜りますようお願い申し上げます。



代表取締役社長
花岡 清二

当中間期の業績の概況

当中間期における経済環境を顧みますと、原油価格の上昇や、欧州の一部地域において景気回復が緩やかになるなどの懸念事項がありましたが、主に中国や米国において景気が拡大したことにより、世界の景気は着実に回復しました。また、日本経済は、企業収益の改善にしたがって設備投資や個人消費も増加の傾向が見られるなど、景気は緩やかに回復しました。

このような経済環境のなか、情報関連機器事業では、欧州のインクジェットプリンタ市場が停滞したものの、コンパクトフォトリソプリンタ「カラリオ ミー E-200」(海外では「PictureMate Deluxe Viewer Edition」)、大型液晶プロジェクションTV「リビングステーション」の発売などにより、前年同期を上回る売上となりました。しかしながら、インクジェットプリンタをはじめとした価格

低下の進行などの影響を受けました。

電子デバイス事業では、携帯電話向けデバイスの需要増加に加え、三洋エプソンイメージングデバイス株式会社の営業開始により前年同期を上回る売上となりました。しかしながら、全般に市場競争の激化による大幅な価格低下の進行や、一部で数量減少による稼働率の低下などの影響を受けました。

精密機器事業では、ウォッチや眼鏡レンズといった個人向け商品の低迷が続きました。

以上のとおり厳しい事業環境のなかで、徹底したコスト削減を推進するなど収益回復のための施策に努め、第2四半期では黒字決算に転換いたしました。しかしながら第1四半期の損失を挽回するまでには至らず、当中間期の連結業績につきましては、売上高は7,202億44百万円(前年同期比5.4%増)、営業利益は60億3百万円(前

年同期比90.9%減)、経常利益は88億76百万円(前年同期比86.1%減)となり、誠に遺憾ながら中間純損失は11億60百万円(前年同期は394億73百万円の純利益)となりました。

株主の皆様への利益還元について

こうした厳しい業績ではありますが、中間配当金につきましては、1株につき前期比3円増となる16円とさせていただきます。エプソンでは、安定した配当を継続することを基本としつつ、今後の事業戦略に応じた資金需要および業績や財務状況を総合的に勘案して株主の皆様へ利益還元を行うこととしております。今年度は電子デバイス事業を中心に大幅な価格低下や競争激化などの影響を受け、前期比減益となる見通しではありますが、ここ数年の業績の推移および今後の見通しを踏まえ、株主の皆様のご支援に報いるべく、増配させていただくことにいたしました。

2005年度下期の経営戦略

エプソンは、株主の皆様をはじめとしたすべてのステークホルダーに信頼される経営を目指しています。その信頼を得るためには、どのような環境変化にも左右さ

れず、常に利益を出しつづけることのできる事業構造への転換を果たすとともに、業績の回復という明確な結果を出さなければならないことは、強く認識しています。

これを実現するために、2005年度下期につきましては、全社一丸となって経営体質強化に取り組んでまいります。特に、大幅な価格低下が予想される電子デバイス事業において、徹底した変動費ならびに固定費の削減や歩留まりのさらなる向上に取り組み、採算改善を目指します。また、インクジェットプリンタ事業においても、不振の欧州での挽回施策を確実に推進するとともに、固定費や間接費用の削減に取り組みます。

今後は、高利益体質への転換を強力に押し進めていくとともに、次の成長に向けた商品づくり・技術開発活動・コストダウン施策を着実に前進させ、さらなる収益性の向上に努めてまいりますので、株主の皆様におかれましては、なにとぞ一層のご指導、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2005年12月

代表取締役社長

花岡 清二

特集：“Exceed Your Vision”を具現化する商品が続々登場 — 新たな驚きや感動がここに —

複合機の商品ラインナップをさらに強化し、おうちプリント

エプソンはインクジェットプリンタ事業において、「Epson=Photo」戦略のもと、写真印刷の拡大を目指した販売戦略を推進しています。2005年10月には、今後も市場拡大が予想されるマルチファンクションプリンタ（複合機）の商品ラインナップをさらに強化し、写真対応複合機「マルチフォトカラリオ」4機種を発売しました。マルチフォトカラリオは、プリンタ、スキャナ、コピーの基本機能に加え、メモリーカードスロットを標準搭載し、デジタルスチルカメラやカメラ付携帯電話で撮影した写真をパソコンなしで直接プリントできます。また、新画像処理技術「オートフォトファイン!EX」*など、簡単、キレイに家庭での写真印刷（おうちプリント）を楽しむための機能を搭載しています。

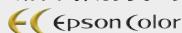
※PM-A750、PX-A650はパソコン接続時のみ対応



PM-A950

これ1台で思いのままに
写真をプリント

マルチフォトカラリオ ラインナップ



PM-A890



PM-A750



PX-A650

おうちプリントがより高速、簡単、キレイに

「PM-A950」は、L判1枚20秒*¹の今までにないハイスピードプリントを実現したマルチフォトカラリオの最高峰モデルです。パソコンなしで直接プリントをする際には、3.5型の高精細液晶「Photo Fine」により画像を細部まで確認できます。また、簡単にオリジナル年賀状が作れる「手書き合成シート」、カメラ付携帯電話で撮影した写真にオリジナルフレームをつけてプリントできる「飾りっプリ」*²などの楽しい機能を搭載し、おうちプリントをより簡単に、キレイに楽しむことができます。

*¹ パソコンからの印刷時

*² 対応する携帯電話の機種は以下のアドレスでご確認ください。

<http://www.i-love-epson.co.jp/products/colorio/keitai/>

の楽しさを訴求

■ ここが “Exceed !!”

プリンタまかせで誰もがきれいな写真をプリントできる「Epson Color」

新画像処理技術「オートフォトファイン!EX」、長期保存性能に優れたインク技術「つよインク」、美しい仕上がりの「純正写真用紙」の組み合わせで実現される写真プリント「Epson Color」*により、これまで定評のあった風景写真の美しさに加え、人物写真においても好ましい色を再現できるようになりました。

*「Epson Color」対応機種は以下のとおりです。

•マルチフォトカラリオ「PM-A950」、PM-A890 •カラリオ ミー「E-150」 •カラリオダイレクト「PM-D800」 •カラリオ「PM-G730」



■ オートフォトファイン!EX

～人物の顔を自動で判別、色補正*～

「オートフォトファイン!EX」は、写真データから人物の顔を自動で判別する新画像処理技術です。逆光や色かぶりなどでうまく撮れなかった人物写真も自動で補正し、見る人が好ましいと感じる肌色にプリントします。もちろん風景写真もクリアな印象に自動補正してプリントします。



顔自動判別



自動色補正

*画像によっては自動判別、自動色補正ができない場合もあります。

■ つよインク

～大事な写真をキレイなままですっと残す～

「つよインク」は、色あせの原因である空気中のオゾンや光から写真を守り、長期保存を可能にするインク技術です。そのまま飾ることはもちろん、アルバムで大切に保存すれば200年*もキレイが長持ちします。



*アルバム保存の表示年数は、一般的なアルバムに長期保存した場合を想定した試験結果によるものです。保管・展示の方法によっては効果が発揮されない場合があります。

■ 純正写真用紙

～キレイを活かす、キレイを残す～

「純正写真用紙」*が、保存性も高く美しい仕上がりの写真プリントを実現します。高級な質感を実現した「写真用紙クリスピー<高光沢>」をはじめとするラインナップで紙質にまでこだわったプリントが楽しめます。



*Epson Color対応純正写真用紙

- 写真用紙クリスピー<高光沢> •写真用紙<絹目調>
- 写真用紙<光沢> •ハイビジョンサイズフォトペーパー

大型液晶プロジェクションTV、ホームプロジェクターによって

DVDプレーヤーの利用増加、デジタル放送の普及にともない、高画質の映像を楽しむことのできる大画面TVや、プロジェクターの市場が拡大しています。エプソンはプロジェクション技術「3LCD方式」を軸に、高精細で美しい映像を高いコストパフォーマンスと低消費電力で実現できる大型液晶プロジェクションTVと、DVD一体型モデルなど豊富なラインナップを誇るホームプロジェクターによって、ホーム市場におけるシェア拡大とブランドの確立を目指します。

環境にも家計にも優しい
大画面・高精細映像



ELS-47S2

ELS-57S2

高精細・大画面の迫力をより身近に楽しむ ことのできる大型液晶プロジェクションTV

リビングステーション「ELS-47S2」(47V型)および「ELS-57S2」(57V型)は、地上・BS・110度CSデジタルハイビジョン対応の液晶プロジェクションTVです。

画面の輝度に合わせて自動的にコントラストを調整する新開発の「PB(ピュアブラック)エンハンサー」の搭載により、暗いシーン本来の質感を再現し、“奥行きのある黒”を表現することが可能になりました。また、使い勝手と環境への配慮をさらに向上させるために、本体の前面端子パネル内に主電源スイッチを新たに設け、電源コンセントを抜くことなく待機時消費電力を0W(ゼロワット)にすることを可能にしました。さらに57V型で本体奥行き約40cm、質量約49kgと、省スペース・軽量化も実現しています。

ホーム市場におけるブランドを確立

ホームプロジェクター市場の裾野をさらに広げるDVD一体型プロジェクター

ドリーミオ「EMP-TWD1」は、「いつでも」「どこでも」「だれでも」使うことのできる簡単さ、手軽さを追求した、DVD一体型プロジェクターです。DVDプレーヤーやスピーカーとのケーブル接続が不要なので、電源、DVDを入れるだけですぐに大画面映像がスタートします。エプソンが開発したワイド液晶パネルによる高画質、明るい場所でもくっきり映る高輝度という画質面だけでなく、高音質スピーカーの内蔵により、迫力と臨場感のある映像を楽しむことができます。

ケーブル接続なしで
映画館のような臨場感



EMP-TWD1

■ ここが “Exceed !!”

高画質を実現する「3LCD方式」とこれを支えるキーデバイス

エプソンの大画面液晶プロジェクションTV、ホームプロジェクターには、すべて「3LCD方式」のプロジェクション技術が採用されています。これは、光源ランプから出た光を赤、緑、青の光の三原色に分解し、3枚の高温ポリシリコンTFT液晶パネル（以下「HTPS」という）に1色ずつ割り当て、プリズムで合成して映像を写す方式です。3LCD方式を採用したプロジェクションTVでは、画面サイズに応じてディスプレイパネルや光源ランプの大

きさを変更する必要がないため、大画面でありながら高いコストパフォーマンス、低消費電力*が実現できます。

また、エプソンは3LCD方式のキーデバイスとなるHTPSを独自に開発しています。このため設計段階から高解像度、目に優しい自然な映像などの性能を最大限に引き出すことができ、広い色域と高画質を実現しています。

*「ELS-57S2」においては消費電力が198Wという低消費電力を実現。



事業別セグメントの業績の状況

エプソンの事業は、主に、情報関連機器事業、電子デバイス事業、精密機器事業の3セグメントで構成されています。ここでは、各セグメントの当中間期の売上高、営業利益について前年同期と比較してご説明いたします。なお、2003年度中間期以降の事業別セグメントの売上高、営業利益の構成は以下のとおりです。

事業別セグメント売上高構成

(単位：億円)

	2003年度中間	2003年度	2004年度中間	2004年度	2005年度中間
連結売上高	6,578	14,132	6,834	14,797	7,202
情報関連機器事業	4,224	9,203	4,345	9,460	4,407
電子デバイス事業	2,103	4,411	2,207	4,826	2,579
精密機器事業	385	811	438	811	429
その他の事業	137	294	179	345	162
消去または全社	△ 273	△ 588	△ 335	△ 645	△ 377

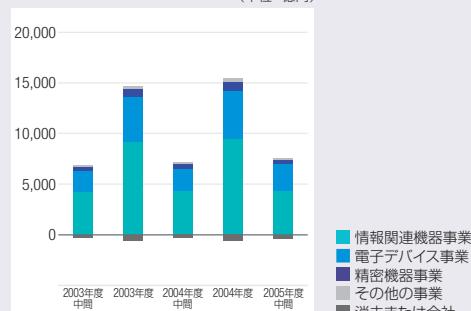
(注) 1. 金額につきましては、記載単位未満を切り捨てています(以下、同じ)。
2. 表の「～年度中間」は4月1日から9月30日まで、「～年度」は、4月1日から翌年の3月31日までを指します(以下、同じ)。

事業別セグメント営業利益構成

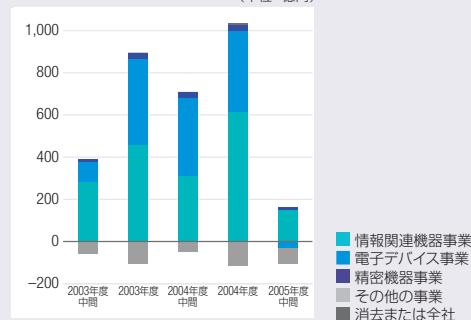
(単位：億円)

	2003年度中間	2003年度	2004年度中間	2004年度	2005年度中間
連結営業利益	331	774	658	909	60
情報関連機器事業	281	459	309	615	150
電子デバイス事業	94	406	371	385	△ 30
精密機器事業	14	28	27	24	10
その他の事業	△ 61	△ 120	△ 51	△ 130	△ 73
消去または全社	1	0	0	14	2

(単位：億円)



(単位：億円)



1. 情報関連機器事業セグメント

当セグメントに含まれる事業は、情報画像事業（インクジェットプリンタ、レーザープリンタ、ドットマトリクスプリンタ、カラーイメージスキャナ、ミニプリンタ、POSシステム関連製品など）、映像機器事業（液晶プロジェクター、大型液晶プロジェクションTVなど）およびPC・その他事業です。

当セグメントの2005年度中間期の売上高は4,407億54百万円（前年同期比1.4%増）となりました。

情報画像事業のうち、レーザープリンタは、価格低下が進行した一方で、販売数量増加により増収となりました。一方、マルチファンクションプリンタ（複合機）の需要拡大にともなう販売数量の減少によりスキャナが減収となりました。インクジェットプリンタは、マルチファンクションプリンタの販売数量増加があったものの、全般的な価格低下とシングルファンクションプリンタ（単機能機）の販売数量減少

の影響を受け売上高は微減となりました。これらの結果、情報画像事業全体の売上高は微増となりました。

映像機器事業のうち、大型液晶プロジェクションTVは、特にOEM光学エンジンの販売数量が増加したことにより大幅な増収となりました。液晶プロジェクターは、価格低下による影響はあったものの、特に米国市場においてビジネス向けの販売数量が増加したことにより増収となりました。これらの結果、映像機器事業全体では大幅な増収となりました。

当セグメントの2005年度中間期の営業利益は、特にインクジェットプリンタにおける価格低下の影響などにより150億94百万円（前年同期比51.3%減）となりました。

情報関連機器事業



コンパクトフォトプリンタ
カラリオ ミー「E-150」



カラーレーザープリンタ
オフィリオ「LP-M5500D」



カラーイメージスキャナ
カラリオスキャナ「GT-X750」



ホームプロジェクター
ドリーミオ「EMP-TW600」

2. 電子デバイス事業セグメント

当セグメントに含まれる事業は、ディスプレイ事業（中・小型液晶ディスプレイ、液晶プロジェクター用高温ポリシリコンTFT液晶パネルなど）、半導体事業（LCDドライバ、システムLSIなど）および水晶デバイス事業（水晶振動子、水晶発振器など）です。

当セグメントの2005年度中間期の売上高は2,579億97百万円（前年同期比16.9%増）となりました。

ディスプレイ事業におきましては、携帯電話向けカラーSTN液晶ディスプレイは競争激化による価格低下の影響で大幅な減収となりました。液晶プロジェクター用高温ポリシリコンTFT液晶パネルは、価格低下に加えて前年度下期の在庫調整による影響で販売数量が減少し、大幅な減収

となりました。一方、新たにアモルファスシリコンTFT液晶ディスプレイと低温ポリシリコンTFT液晶ディスプレイの販売開始による増収効果がありました。これらの結果、ディスプレイ事業全体の売上は大幅な増収となりました。

半導体事業におきましては、LCDドライバとシステムLSIが価格低下と販売数量減少によりともに大幅な減収となりました。これらの結果、半導体事業全体では大幅な減収となりました。

水晶デバイス事業におきましては、全般的に価格が低下したことに加え、携帯電話向け商品の需要が低価格帯へシフトして高価格帯の販売数量が減少したことにより、減収となりました。

電子デバイス事業



アモルファスシリコンTFT
液晶ディスプレイモジュール



高温ポリシリコンTFT液晶パネル



USB2.0コントローラLSI



温度補償型水晶発振器

当セグメントの2005年度中間期は、30億95百万円の営業損失(前年同期は371億74百万円の営業利益)となりました。これは、液晶プロジェクター用高温ポリシリコン TFT液晶パネルが減収となったことに加え、千歳事業所の稼動にともない費用増となったこと、アモルファスシリコン TFT液晶ディスプレイのコスト対応が途上であること、LCDドライバとシステムLSIと携帯電話向けカラーSTN液晶ディスプレイがそれぞれ大幅減収となったことなどによるものです。

3. 精密機器事業セグメント

当セグメントに含まれる事業は、ウオッチ事業(ウオッチ、ウオッチムーブメントなど)、光学事業(プラスチック眼鏡レンズ、光学デバイスなど)、FA機器事業(水平多関節型ロボット、ICハンドラなど)です。

当セグメントの2005年度中間期の売上高は429億58百万円(前年同期比1.9%減)となりました。当セグメントにおきましては、眼鏡レンズの販売数量増加などの増収要因があった一方で、前年度上期にICハンドラの需要が好調に推移した反動やウオッチの販売数量が減少した影響があり、若干の減収となりました。

営業利益につきましては、ウオッチの販売数量減少に加え、価格低下とICハンドラの減収の影響などにより10億27百万円(前年同期比62.7%減)となりました。

精密機器事業



ワールドタイムソーラー電波時計
セイコーブライツ「SAGZ007」



プラスチック眼鏡レンズ



垂直多関節型6軸ロボット「ProSix」

経営トピックス

エプソントヨコム株式会社が営業開始

エプソンの水晶デバイス事業と東洋通信株式会社（以下「東洋通信機」という）の統合による新会社「エプソントヨコム株式会社」が、2005年10月1日より営業を開始いたしました。

水晶デバイスは無線通信機器、パソコンの時計機能など、デジタル情報機器のキーデバイスとして重要な位置を占めています。

ウォッチビジネスから派生し、民生分野向けのタイミングデバイスに強みを持つエプソンと、産業用途のデバイスに強みを持つ東洋通信機の統合により、商品ラインナップ、生産設備などにおいて補完関係を築くことができました。

今後は、お互いの得意とする量産・微細加工技術、高精度加工技術をより強化するとともに、商品開発のスピードアップ、市場変動への柔軟な対応など最大限のシナジーを発揮し、水晶デバイス業界におけるリーディングカンパニーを目指します。



日野本社

なお、同社の概要は以下のとおりです。

- 会社名 エプソントヨコム株式会社
(英文社名: Epson Toyocom Corporation)
- 創業日 2005年10月1日
- 本社 東京都日野市日野421-8
- 代表者 代表取締役社長: 加々美 健雄
- 資本金 95億6,000万円
- 従業員数 約1,600名
- 事業内容 水晶を基礎とした「タイミングデバイス」「センシングデバイス」「オプトデバイス」の3つの製品群が事業の柱です。

「タイミングデバイス」

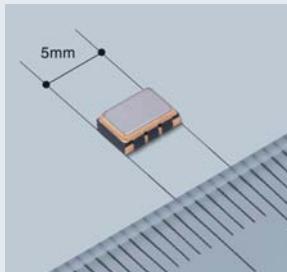
電氣的に正しい時間とスピードで情報を送るためのタイミング(クロック)を発生させるデバイス。あらゆる電子製品に使用されています。



温度補償型水晶発振器
「TCO-5890」シリーズ

「センシングデバイス」

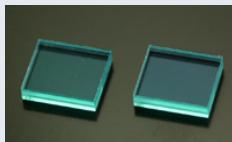
ジャイロ（回転速度）、温度、圧力などの物理量を電気信号へと変換するデバイス。デジタルスチルカメラの手ブレ防止機能などに使用されます。



ジャイロセンサ [VX-3500CB]

「オプトデバイス」

光技術を応用したデバイス。主な製品はデジタルスチルカメラの画像補正用の光学フィルタやDVDドライブの光ピックアップ用のプリズムです。



光学ローパスフィルタ

世界陸上ヘルシンキ大会をオフィシャルIT パートナーとして協賛

2005年8月6日から14日までフィンランドのヘルシンキで開催された第10回IAAF*世界陸上競技選手権（以下「世界陸上」という）を、オフィシャルITパートナーとして協賛いたしました。エプソンは、1997年アテネ大会以降、計測されたタイムや距離、そのほか大会運営に必要なデータや情報を収集し、関係者にインターネットや印刷物を通じて配信するサービスを提供することで世界陸上を支援しつづけています。

このようにスポーツイベントに協賛する背景には、スポーツが言葉や人種、国境の壁を越えて世界の人々に感動を与えるものであること、そして、選手たちの記録に挑戦する姿勢や自らの限界を超えたいと願う気持ちが、「創造と挑戦」という企業風土と合致することがあげられます。また協賛を通じて、エプソンを世界中の人々に知っていただくだけでなくとどまらず、親近感・信頼感・安心感といった企業イメージ向上にもつながります。エプソンは今後も、2009年のベルリン大会まで世界陸上の協賛を継続する予定です。



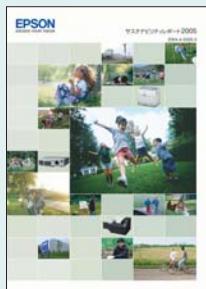
*IAAF: International Association of Athletics Federations
(国際陸上競技連盟)

環境活動

「サステナビリティレポート2005」を発行

2004年度の環境・社会活動の実績をまとめた「サステナビリティレポート2005」を日本語版は6月、英語版は8月に発行しました。エプソンは1999年度より毎年、年度ごとの環境活動実績をまとめた「環境報告書」を発行してきましたが、2003年度より名称を「サステナビリティレポート」に改め、包括的な社会的責任に対する企業姿勢および活動内容についてまとめています。

今年もこれまで同様、環境に配慮した商品の開発・製造、使用済み商品の回収・リサイクルなどの環境保全活動の成果と、活動にかかった費用をまとめた環境会計および企業倫理、人材育成、労働安全衛生、製品責任、社会貢献などの社会活動について報告しています。なお、三洋エプソンイメージングデバイス株式会社も、今年から「環境報告書2005」を発行しています。



サステナビリティレポート2005

掲載ページアドレス:

(和文) <http://www.epson.co.jp/ecology/report/index.html>

(英文) http://www.epson.co.jp/e/community/environmental_report.htm

全世界の工場内で使用するすべての化学物質情報を一元管理

～化学物質データ管理システム(E-Chem)を全製造拠点に導入完了～

社内イントラネットを活用した化学物質データ管理システム(E-Chem)の、国内外の全製造拠点(国内10事業所、国内製造系関係会社6社、海外製造系関係会社18社)への導入が完了しました。本システムは、製品の生産工程で使用するすべての化学物質について、使用量・排出量・該当法令などの情報を一元化した化学物質の総合管理システムで、全製造拠点への導入により情報管理統合化とリスク削減における全社活動体制が整いました。本システムは社内イントラネットを通じて誰でも閲覧可能となっており、「どこで」「どのような化学物質が」「どのように使用されているか」を簡単に知ることができます。

エプソンでは、本システムを積極的に活用し、今後も化学物質リスク削減活動を強力に推進してまいります。

業界初、中国国外製造のプリンタが 「中国省エネルギー認証」を取得

～認証取得商品のカテゴリラインナップ業界最多*～

中国で販売しているドットマトリクスプリンタ「LQ-590K」において「中国省エネルギー認証」を取得しました。中国における統括会社Epson(China) Co., Ltd.およびインドネシアの製造拠点P.T. Indonesia Epson Industryとの協力により、中国国外製造のプリンタとしては初めての取得となりました。エプソンはインクジェット、ドットマトリクス、レーザーのすべてのプリンタカテゴリで中国省エネルギー認証品を揃え、豊富なラインナップは業界最多*となっています。

エプソンのドットマトリクスプリンタは1980年の販売開始以降、全世界で高いマーケットシェアを獲得しています。特に成長著しい中国市場を販売重要地域として、設計・製造から販売・サポートにいたるまで市場ニーズに合った製品を投入しています。今後も中国省エネルギー認証を継続して積極的に取得するなど、環境性能への配慮を進め

るとともに、製販一体となってお客様のご要望を満たす商品づくりに努め、中国市場でのプリンタシェアの拡大を目指します。

※2005年8月エプソン調べ



ドットマトリクスプリンタ
「LQ-590K」

地球温暖化防止のための国民的プロジェクト 「チーム・マイナス6%」に参加

エプソンは温暖化物質排出量を削減するため、1998年より、生産プロセスの改革や省資源技術開発について全社を挙げて取り組んでいます。2005年2月16日に京都議定書が発効され、会社における活動だけでなく、それぞれの社員が地球温暖化防止に取り組むことの重要性も高まってきました。エプソンは、「チーム・マイナス6%」に企業として参加し、各拠点にロゴマークを掲示するなど社員一丸となった取り組みを進めています。

2005年6月には、環境月間として「家庭から みつめ直そうライフスタイル みんなで止める温暖化」の標語を掲げ、オフィスでの夏の軽装(クールビズ)の推進やノーマイカーデーの積極的な実施など、会社と家庭における環境活動を進めました。

「チーム・マイナス6%」とは

地球温暖化を抑制するための国際的条約である京都議定書における日本の目標「2010年のCO₂排出量を1990年比マイナス6%に抑制する」を達成するための、個人、官公庁、地方自治体、一般企業、NPO・NGOなど幅広い参加者が一丸となって取り組む国民的プロジェクトの愛称です。



各拠点にて横断幕を掲示中

連結決算の概要

中間連結貸借対照表の要旨

科目	2005年度中間 (2005年9月30日現在)	2004年度 (2005年3月31日現在)
■ 資産の部		
流動資産	8,292	7,471
現金及び預金	2,589	2,355
受取手形及び売掛金	2,561	2,561
たな卸資産	2,234	1,766
その他	943	823
貸倒引当金	△36	△36
固定資産	5,452	5,510
有形固定資産	4,308	4,413
建物及び構築物	4,275	4,197
機械装置及び運搬具	5,245	5,211
工具、器具及び備品	1,952	1,882
土地	589	588
その他	131	77
減価償却累計額	△7,886	△7,543
無形固定資産	259	265
投資その他の資産	885	831
投資有価証券	542	498
その他	350	340
貸倒引当金	△7	△7
資産合計	13,745	12,982

(注) 金額につきましては、記載単位未満を切り捨てています(以下同じ)。

(単位：億円)

科目	2005年度中間 (2005年9月30日現在)	2004年度 (2005年3月31日現在)
■ 負債の部		
流動負債	5,740	5,050
支払手形及び買掛金	1,959	1,450
短期借入金	582	306
1年以内に返済予定の長期借入金	1,405	1,046
未払金	785	1,190
その他	1,007	1,056
固定負債	2,906	2,936
長期借入金	2,502	2,599
その他	404	337
負債合計	8,647	7,986
■ 少数株主持分		
少数株主持分	302	266
■ 資本の部		
資本金	532	532
資本剰余金	795	795
利益剰余金	3,472	3,509
その他有価証券評価差額金	68	37
為替換算調整勘定	△72	△145
自己株式	△0	△0
資本合計	4,794	4,728
負債、少数株主持分及び資本合計	13,745	12,982

■ 貸借対照表のポイント

総資産

たな卸資産、現金及び預金の増加などにより、前期末に比べ763億円の増加となっています。

たな卸資産

年末の商戦期に向けて、インクジェットプリンタ新商品の在庫を積み増したことなどにより、前期末に比べ467億円の増加となっています。

中間連結損益計算書の要旨

(単位: 億円)

科目	2005年度中間 (2005年4月1日から 2005年9月30日まで)	2004年度中間 (2004年4月1日から 2004年9月30日まで)
売上高	7,202	6,834
営業利益	60	658
経常利益	88	637
税金等調整前中間純利益	76	595
中間純利益(△損失)	△11	394

中間連結キャッシュ・フロー計算書の要旨

(単位: 億円)

科目	2005年度中間 (2005年4月1日から 2005年9月30日まで)	2004年度中間 (2004年4月1日から 2004年9月30日まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー	268	615
投資活動によるキャッシュ・フロー	△583	△449
財務活動によるキャッシュ・フロー	529	△671
現金及び現金同等物に係る換算差額	12	30
現金及び現金同等物の増(減)額	226	△475
現金及び現金同等物の期首残高	2,349	2,651
現金及び現金同等物の中間期末残高	2,577	2,176

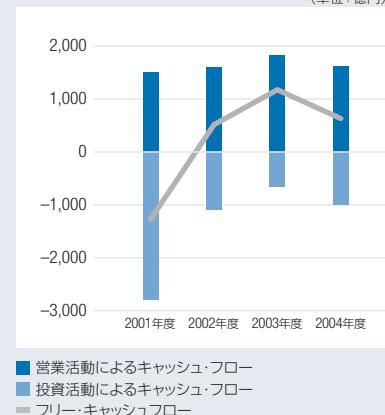
主な経営指標の推移(2004年度まで)

(単位: %)



キャッシュ・フローの推移(2004年度まで)

(単位: 億円)



単体決算の概要

中間貸借対照表の要旨

科 目	2005年度中間 (2005年9月30日現在)	2004年度 (2005年3月31日現在)
■ 資産の部		
流動資産	4,851	4,052
現金及び預金	1,603	1,367
受取手形及び売掛金	1,821	1,457
たな卸資産	613	571
その他の	812	655
貸倒引当金	△0	△0
固定資産	5,247	5,318
有形固定資産	2,823	2,930
建物	1,186	1,233
機械及び装置	782	883
土地	499	499
その他の	355	312
無形固定資産	136	135
投資その他の資産	2,286	2,253
投資有価証券	419	375
関係会社株式	1,625	1,593
その他の	241	284
貸倒引当金	△0	△0
資産合計	10,098	9,370

(単位：億円)

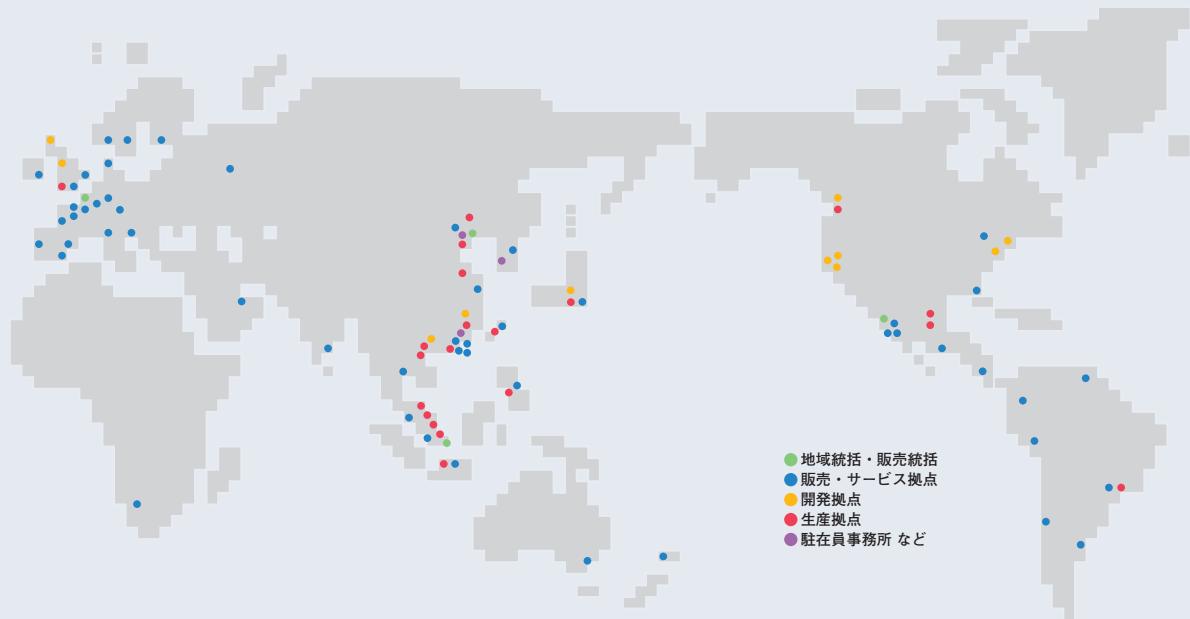
科 目	2005年度中間 (2005年9月30日現在)	2004年度 (2005年3月31日現在)
■ 負債の部		
流動負債	4,148	3,238
支払手形及び買掛金	1,580	1,088
短期借入金	220	120
1年以内に返済予定の長期借入金	1,215	823
未払金	470	736
その他	661	470
固定負債	2,146	2,336
長期借入金	2,022	2,232
その他	124	104
負債合計	6,294	5,574
■ 資本の部		
資本金	532	532
資本剰余金	795	795
利益剰余金	2,410	2,432
その他有価証券評価差額金	65	36
自己株式	△0	△0
資本合計	3,803	3,795
負債資本合計	10,098	9,370

中間損益計算書の要旨

(単位：億円)

科 目	2005年度中間 (2005年4月1日から 2005年9月30日まで)	2004年度中間 (2004年4月1日から 2004年9月30日まで)
売上高	4,433	5,458
営業利益(△損失)	△125	360
経常利益(△損失)	△34	358
税引前中間純利益(△損失)	△38	349
中間純利益(△損失)	△3	230

グローバル事業展開



■ 本社および主な事業所

本社	本店
広丘事業所	松本南事業所
島内事業所	諏訪南事業所
千歳事業所	富士見事業所
酒田事業所	伊那事業所
日野事業所	塩尻事業所
松島事業所	

■ 国内関係会社 29社

エプソン販売株式会社
エプソンダイレクト株式会社
三洋エプソンイメージングデバイス株式会社
東北エプソン株式会社
オリエン時計株式会社
他 24社

■ 海外関係会社 77社

統括会社

U.S. Epson, Inc. (地域統括)
Epson Europe B.V. (地域統括)
Epson (China) Co., Ltd. (地域統括)
Epson Singapore Pte. Ltd. (地域販売統括)

販売拠点

Epson America, Inc.
Epson (U.K.) Ltd.
Epson (Shanghai) Information Equipment Co., Ltd.

生産・開発拠点

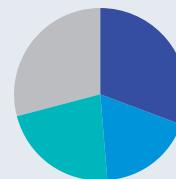
Epson Precision (Hong Kong) Ltd.
P.T. Indonesia Epson Industry
Suzhou Epson Co., Ltd.

他 67社

(2005年9月30日現在)

■ 連結売上高に占める海外売上高の割合

(2005年4月～9月の6ヶ月通算)

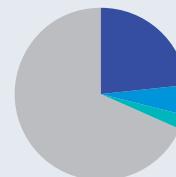


仕向地別売上高比率

■ 日本	30.7%
■ 米州	18.0%
■ 欧州	22.2%
■ アジア・オセアニア	29.1%

■ 所在地別従業員数の割合

(2005年9月30日現在)



■ 日本	23.3%
■ 米州	5.6%
■ 欧州	2.7%
■ アジア・オセアニア	68.4%

IR情報ページのご紹介

株主、投資家の皆様向けに、ホームページにおいて様々な情報をお届けしています。四半期ごとの決算資料だけでなく、これまでに発行した事業報告書なども掲載していますので、ぜひ一度ご覧ください。

<http://www.epson.co.jp/IR/index.html>



■主なメニュー

● ごあいさつ

経営者からのメッセージを掲載しています。

● 財務ハイライト

売上高、経常利益、当期純利益など業績の推移のグラフを掲載しています。

● 財務情報

貸借対照表、損益計算書などの財務諸表を掲載しています。

● 決算資料

四半期ごとの決算短信と、決算説明会のプレゼンテーション資料、動画、質疑応答要約を掲載しています。

● IRライブラリ

これまでに発行したアニュアルレポート、事業報告書、有価証券報告書を掲載しています。

会社情報

- **本社** 〒392-8502 長野県諏訪市大和三丁目3番5号
TEL : 0266-52-3131 (代表)
- **本店** 〒163-0811 東京都新宿区西新宿二丁目4番1号
新宿NSビル
TEL : 03-3348-8531 (代表)
- **資本金** 532億4百万円
- **創立** 1942年5月18日
- **従業員数** (2005年9月30日現在)
連 結 : 98,480人
単 体 : 12,828人
- **グループ会社数** (2005年9月30日現在)
107社 (当社を含む)
国 内 : 30社
海 外 : 77社
- **主要事業**
 - 情報関連機器事業 (各種プリンタおよびそれらの消耗品、カラーイメージスキャナ、液晶プロジェクター、大型液晶プロジェクションTV、液晶モニター、ラベルライター、ミニプリンタ、POSシステム関連製品、PCなど)
 - 電子デバイス事業 (中・小型液晶ディスプレイ、液晶プロジェクター用高温ポリシリコン/TFT液晶/パネル、CMOS LSI、水晶振動子、水晶発振器など)
 - 精密機器事業 (ウオッチ、ウオッチムーブメント、プラスチック眼鏡レンズ、光学デバイス、水平多関節型ロボット、ICハンドラなど)
 - その他の事業 (グループ内サービス業、胎内育成事業など)
- **ホームページアドレス** <http://www.epson.co.jp/>

■ 役員一覧 (2005年11月1日現在)

取締役会長 (代表取締役)	草間 三郎	取締役	橋爪 伸夫
取締役副会長	服部 靖夫		平野 精一
取締役社長 (代表取締役)	花岡 清二		確井 稔
取締役副社長 (代表取締役)	木村 登志男		内田 健治
	(代表取締役)		濱 典幸
専務取締役	両角 正幸	取締役相談役	安川 英昭
常務取締役	大月 康正	常勤監査役	大前 昌義
	赤羽 正雄		木代 俊彦
	矢島 虎雄	監査役	山本 恵朗
	久保田 健二		秋山 富一
	小松 宏		石川 達敏

株式情報

■ 株式の状況 (2005年9月30日現在)

会社が発行する株式の総数	607,458,368株
発行済株式の総数	196,364,592株
株主の総数	46,585人

■ 大株主の状況

株主名	所有株式数 (千株)	所有比率 (%)
青山企業株式会社	20,318	10.34
三光起業株式会社	14,288	7.27
ステート ストリート バンク アンド トラスト カンパニー	7,831	3.98
株式会社みずほコーポレート銀行	7,593	3.86
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	7,251	3.69
服部 靖夫	7,144	3.63
服部 禮次郎	7,060	3.59
第一生命保険相互会社	6,240	3.17
セイコー株式会社	6,145	3.12
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	5,723	2.91

(注) 1. 所有株式数は千株未満を切り捨てています。
2. 所有比率は小数点以下第3位を切り捨てています。

■ 株主メモ

決算期	3月31日
定時株主総会	6月中
利益配当金支払株主確定日	3月31日
中間配当金支払株主確定日	9月30日
名義書換代理人	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社
同事務取扱場所	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部 0120-288-324(フリーダイヤル) http://www.mizuho-tb.co.jp/daikou/
同取次所	みずほ信託銀行株式会社 全国各支店 みずほインベスターズ証券株式会社 本店および全国各支店
公告掲載新聞	日本経済新聞

セイコーエプソン株式会社

〒392-8502 長野県諏訪市大和 3-3-5

Tel: 0266-52-3131 (代表)

<http://www.epson.co.jp/>

